



グリーンインフラ地域共創に関するオープン研究会
—谷津のある未来の風景を、ともに描く—

2026年

3/6

Fri.

14:00

17:00

主催：清水建設株式会社
企画運営：NPO法人Green Connection Tokyo、
NPO法人NPO birth

グリーンインフラ地域共創に関するオープン研究会 —谷津のある未来の風景を、ともに描く—

開催レポート

日時：2026年3月6日(金) 14:00～17:00

会場：富里市中央公民館

主催：清水建設株式会社

企画運営：NPO 法人 Green Connection Tokyo

NPO 法人 NPO birth

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設





1. イントロダクション



参加者紹介



22 の団体から 52 名の方が参加。

各団体のお名前を読み上げ、参加者のみなさんに挙手でお応えいただきました。

NPO法人 NPO富里のホタル	北総クルベジ
おしどりの里を育む会	AGRI ブロードカントリー株式会社
谷津みらいの会	日吉台三丁目自治会会長
ハツ堀のしみず谷津	川野電機
富里市役所	とみさと市民活動サポートセンター
佐倉市役所	主催：清水建設株式会社
日本大学	グラレコ担当：東京大学保全生態学研究室
国立研究開発法人国立環境研究所 気候変動適応センター	レポート作成担当：はけの道編集室
隅田川マルシェ実行委員会	企画・運営担当： NPO 法人 Green Connection TOKYO
和歌山ノーキョー	企画・運営担当：NPO 法人 NPO birth

清水建設の取り組み紹介

清水建設のオープン研究会とは

清水建設は、グリーンインフラをテーマとした「オープン研究会」を継続的に開催しています。

第1回は豊洲の自社施設「ミチノテラス豊洲」、第2回は「温故創新の森NOVARE」で開催され、今回が3回目となります。今回は、現在活動を進めている千葉県富里市を会場とし、この地域での取り組みを基点に、さまざまな主体と連携しながら活動を広げていくことを目的として開催されました。

環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」

清水建設グループでは、「SHIMZ Beyond Zero 2050」という環境ビジョンを掲げ、脱炭素社会・資源循環社会・自然共生社会の実現に向けた取り組みを進めています。

脱炭素分野では評価指標が整いつつある一方、自然共生やネイチャーポジティブの分野では評価方法がまだ十分に確立されていません。そこで同社では、自然の多様な機能を活用する社会資本であるグリーンインフラの導入と活用に関心をもち、力を入れています。

「グリーンインフラ+」という事業コンセプト

清水建設では、グリーンインフラの考え方に自然再生や生物多様性保全に関する技術や知見を組み合わせた「グリーンインフラ+（プラス）」というコンセプトを掲げています。

これは、地域固有の自然生態系を尊重しながらその価値を高め、地域へ還元していくことを目指す取り組みです。

都市型モデルと郊外型モデル

これまでの代表的な事例として、都市型モデルである技術研究所の「再生の杜ビオ



清水建設株式会社 環境経営推進室
グリーンインフラ推進部部長
橋本 純



グリーンインフラ+（PLUS）事例として

環境経営推進室内の組織として、グリーンインフラ推進部を設立。以下を目的として2021年より活動を開始：
・グリーンインフラに関する知識の蓄積
・グリーンインフラに関する技術開発

都市型モデルケース： 技術研究所 再生の杜ビオ	郊外型モデルケース： 八ツ畑のしみず谷津
<ul style="list-style-type: none">都市における人と生き物の関係を再生竣工2004年以降、モニタリングを継続計画や再生技術などの知識を蓄積	<ul style="list-style-type: none">人と自然の新たななかかわり方を探索2021年以降、毎月1回活動を継続グリーンインフラに関する知識を蓄積



活動紹介

NPO 富里のホタル

NPO 法人「富里のホタル」は、2007年に富里市で設立され、今年で活動19年目を迎えます。発足当初はホタルの保護を目的として活動を開始しましたが、活動を続ける中で、ホタルを守るためには里山全体の環境保全が重要であることが見えてきました。現在はホタルの生息地保全に加え、里山の生態系を活かした環境保全にも取り組んでいます。

市内に5か所の活動拠点を持ち、ホタルの生息地の保全や希少植物の保全活動を行っています。また、学校や幼稚園への出前授業、子どもと保護者を対象とした体験型イベント「里やま塾」を開催し、自然に親しむ機会を提供しています。自然を楽しむ体験を通じて、環境への関心や理解を育む活動を続けています。



NPO 富里のホタル
理事長 山崎 卓

おしどりの里を育む会

「おしどりの里を育む会」は、2019年7月に地域住民を中心に発足した団体です。自然の中での交流の場づくりを目的に、遊びの延長のような形で活動を始めました。団塊世代の地域住民が中心となり、当初は専門知識のないところからのスタートでしたが、活動を続ける中で研究者や関係団体とのつながりが生まれ、助言を受けながら学びを深めてきました。

現在は大学関係者や学生の協力も得ながら、里山環境の保全や地域の自然を活かした活動を進めています。企業助成などの支援も受けつつ、防災・減災の視点を取り入れた里山整備にも取り組んでいます。



おしどりの里を育む会
会長 相川 芳文

谷津みらいの会

「谷津みらいの会」は2022年に発足し、富里市の末廣農場近く、旧岩崎家別邸裏手に広がる谷津地形を拠点に活動しています。この場所はかつて水田として利用されていましたが、その後耕作放棄地となり、陸地化が進んでいました。そこで谷津の自然環境を活かし、地域の人々が自然に触れ憩える場として再生することを目指しています。

活動では池や田んぼを整備し、水辺環境の再生や水をためる仕組みづくりを進めています。その結果、日本アカガエルやヘイケボタル、ゲンジボタルなど多様な生き物が確認されています。谷津の景観と自然を守りながら、次世代へ引き継ぐ場づくりを続けています。



谷津みらいの会
会長 吉木 保



日本大学 生産工学部 環境安全工学科

日本大学生産工学部環境安全工学科では、土木分野における景観やまちづくりをテーマとした研究を行っています。研究室では、地域の自然環境や景観を活かしたまちづくりの研究と実践に取り組んでいます。ハツ堀のしみず谷津の活動が将来のまちづくりにつながる取り組みとして声をかけられたことをきっかけに参加し、現在は企画や情報発信など運営面のサポートを行っています。



日本大学 生産工学部 環境安全工学科
准教授 永村景子



「谷津ウォーク」のしおり制作やイベント企画、学生によるシールラリーや谷津カードなどの取り組みを通じ、谷津を訪れるきっかけづくりや人と人をつなぐ役割を担っています。



北総クルベジ 喜屋武誠司

北総クルベジ

「北総クルベジ」は、里山保全と農業を結びつける取り組みとして、バイオ炭を活用した土壌改良とCO₂削減を目指して活動しています。里山整備で発生する竹や剪定枝などの未利用バイオマスからバイオ炭を製造し、それを農地に施用することで炭素固定と土壌改良につなげています。

里山保全団体と連携して作られたバイオ炭を農家が購入し、農業に活用することで、農業と里山保全が循環する仕組みづくりを進めています。「クルベジ」は「Cycle & Cool Vegetable」の略で、バイオ炭を使って栽培された野菜をブランド化し、地域の自然環境を次世代へつなぐ循環型の取り組みを目指しています。



隅田川マルシェ実行委員会

隅田川マルシェ実行委員会は、隅田川周辺の公共空間やテラスを活用し、マルシェの開催を通じて人々の交流や地域の新しいつながりを生み出す活動を行っています。年間およそ10回のマルシェを開催し、川辺に人が集まり、地域の魅力や歴史を再発見する場づくりに取り組んでいます。



また富里市の谷津地域とも連携し、谷津で伐採された竹を活用したイベントを実施しています。七夕の笹飾りやスタンプラリー、竹を使ったクリスマスツリーづくりなどを通じて、都市の人々が自然や地域資源に触れながら交流できる機会を広げています。都市と自然を結ぶ新しい地域活動を目指しています。



隅田川マルシェ実行委員会
イワタマサヨシ





2.インプットセッション



谷津の歴史と未来

自然を活かすという視点

日本列島では、人々は長い間、**地域ごとの自然の特徴を読み取りながら暮らしてきました**。しかしこの 60 年ほどの間、都市開発を中心とした社会の中で、**自然の機能を活かすという発想は弱くなってきたとも言えます**。

一方で、気候変動や人口減少が進む現在、自然の持つ機能を社会に活かす「グリーンインフラ」(自然の働きを防災や環境管理に活用する考え方)の重要性が高まっています。谷津は、そうした**自然の機能を活かす代表的な場所の一つ**です。



国立研究開発法人
国立環境研究所気候変動適応
センター 副センター長
西廣 淳

谷津という地形の成り立ち

印旛沼周辺の台地は、**約 15 万年前の海底が隆起してできた地形**です。台地に降った雨は地下水となり、湧き出しながら周囲の土を削って谷をつくります。この谷状の地形が「谷津」です。

谷津では、**湧水を利用した水田**が古くから営まれてきました。戦後しばらくまでは多くの谷津が田んぼとして利用されていましたが、農業の機械化が進むにつれ、狭い谷の田んぼは次第に耕作が難しくなりました。現在では**約 4 割の谷津が埋め立てられ、残る多くも耕作放棄地**となっています。

谷津が持つ多様な機能

耕作放棄地となった谷津は、農業の視点からは荒れてしまった土地に見えるかもしれませんが。しかし見方を変えると、**自然の機能を回復する場所**として大きな価値を持っています。

例えば、生物多様性の面では、湧水環境に生息するホトケドジョウなどの**希少な生き物**を守る場所になります。また、谷津に水を一時的にためることで、大雨の際に下流へ流れる水量を抑え、**水害リスクを軽減する効果**が期待できます。さらに、湧水を湿地に導くことで、**水質浄化**にもつながります。

加えて、里山整備で増えすぎた竹を活用し、バイオ炭として炭素を固定するなど、**脱炭素**への貢献も考えられています。このように谷津は、**防災・生物多様性・水質改善・気候変動対策**など、さまざまな役割を持つ場所となり得ます。





谷津の自然をどのように未来に活かしていくのか。

地域の人々、研究者、企業、行政が連携しながら、新しい自然との関わり方を考えていくことが求められています。

自然の活用、これからの主要な課題

地権者・農業者との連携

- 「グリーンインフラの機能は公益。その負担を個人に押し付けない仕組みづくり。」
- 「地元の人と「環境の人」／外からの人／未来の人との共有価値の創造。」

流域内の自治体連携

- 「たとえば、谷津の治水機能だけを考えれば下流が受益者で上流が負担者。しかし谷津の直接利用は上流に強み。評価軸（捉え方）次第で関係は変わる。自治体間の連携を強化し「流域全体の価値向上」を目指したほうが良い。」



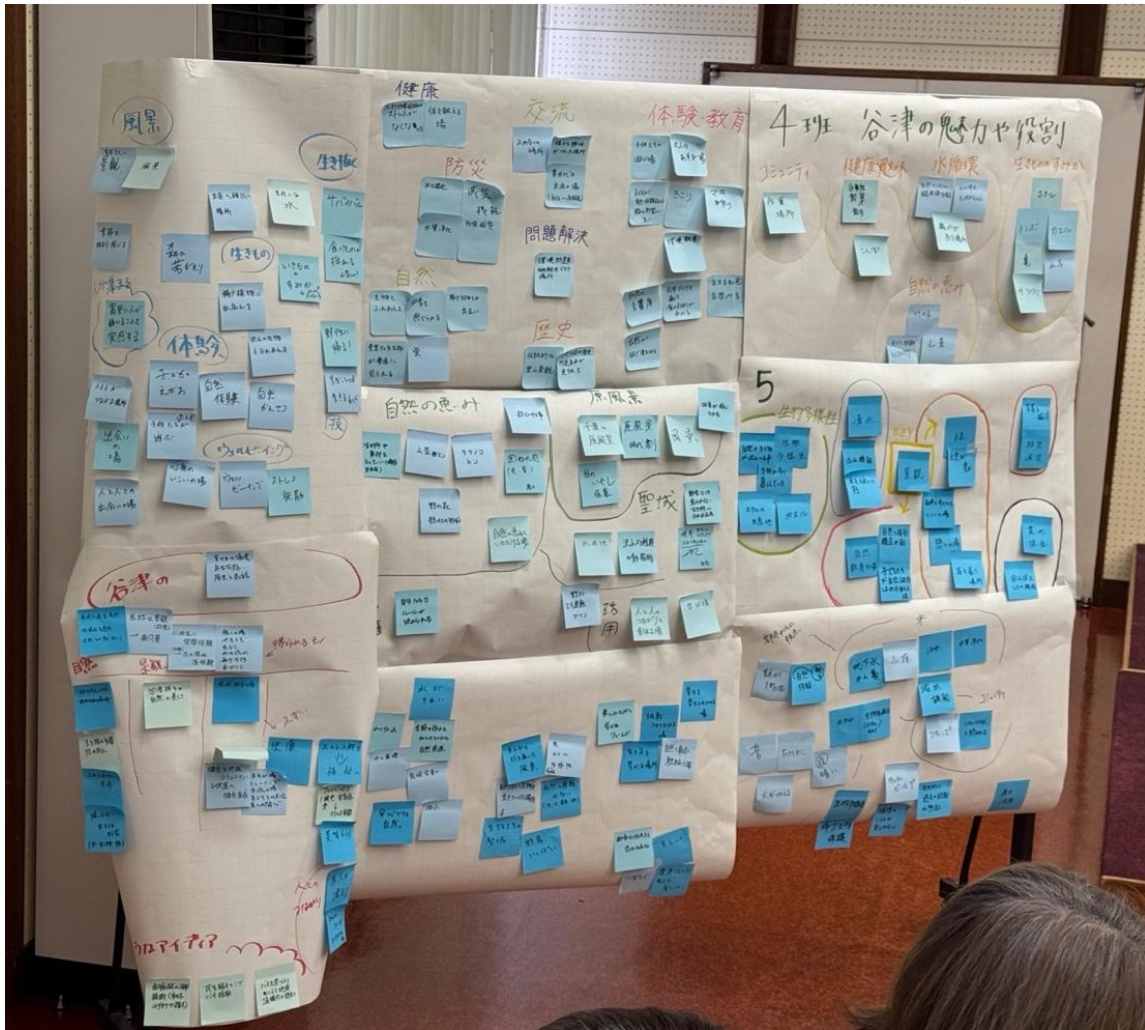


3.ワークショップ



2035年の谷津のある暮らしの未来をつくる

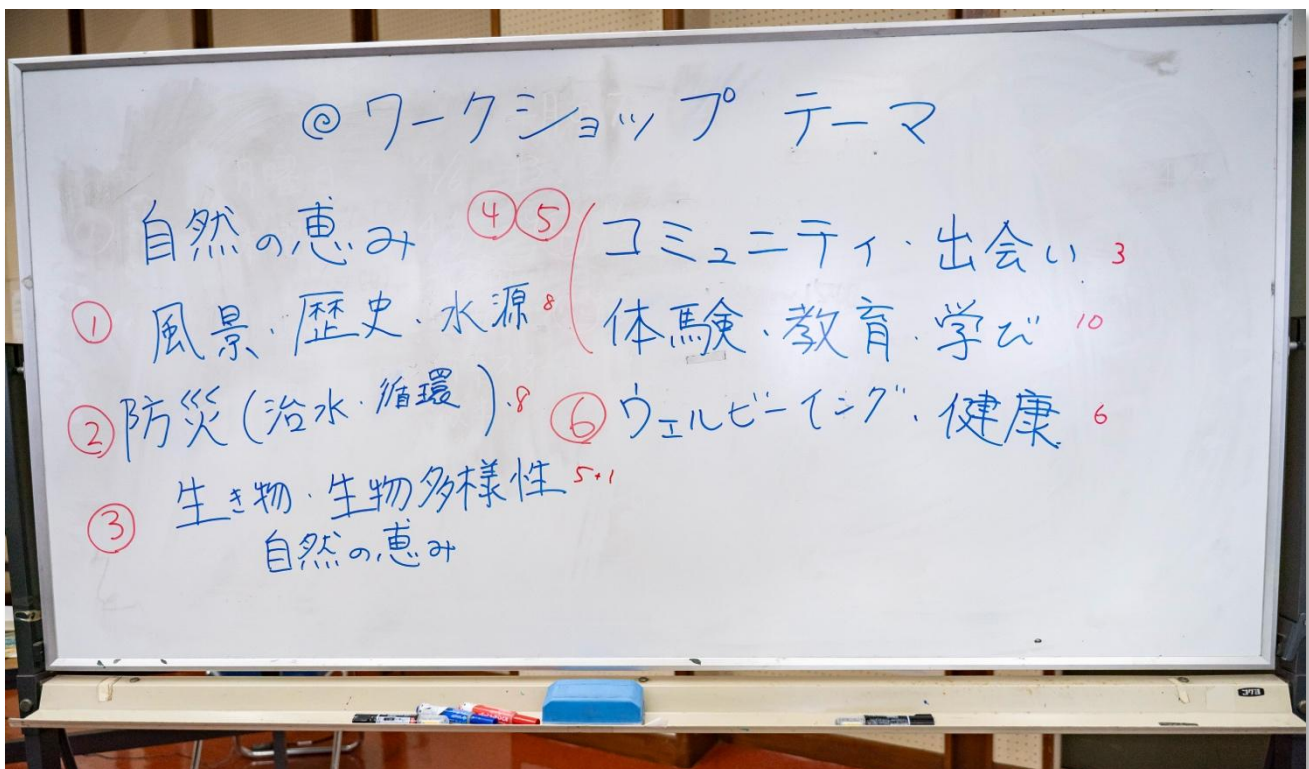
① 谷津の魅力や役割を洗い出そう！



まずは参加者全員で、谷津の魅力や役割として考えられるキーワードを、青い付箋に書き出しました。



② テーマを選んでチーム分け



① で書き出した「谷津の役割や魅力」のキーワードをテーマごとに5つに分けました。参加者は、話し合いたいテーマに分かれて、チーム分けを行いました。

- 1班 風景・歴史・水源
- 2班 防災(治水・循環)
- 3班 生き物・生物多様性(自然の恵み)
- 4・5班 コミュニティ・出会い・体験・教育・学び



④全体で発表！

1班 風景・歴史・水源



【発表】

1班では、谷津の風景や歴史、水源といった地域資源をどのように守り活かしていくかについて意見交換を行いました。耕作放棄地の増加や管理の担い手不足、私有地であることによる保全の難しさなどが課題として挙げられました。こうした状況を踏まえ、谷津の景観や歴史、水源といった多面的な価値を地域資源として捉え直し、企業・行政・市民など多様な主体が連携して守る仕組みづくりが必要との意見が共有されました。また、整備で生じる竹や剪定枝をバイオ炭などとして活用し、地域資源の循環や事業性につなげる可能性も指摘されました。さらに、SNS や動画などを活用した情報発信を通じて谷津の魅力を広く伝え、新たな担い手や関係人口を増やしていくことの重要性が話し合われました。

【参加者コメント】

- ◇ 谷津の価値を知ってもらうだけでなく、子どもから大人まで自然の中で自由楽しめる場所として魅力を伝えることが重要。
- ◇ 谷津ウォークなどのイベントを継続し、SNS などを活用して情報発信することで、多くの人に谷津の魅力を広げられる。
- ◇ 風景を維持するには継続的な管理が必要であり、竹などの未利用資源をバイオ炭やエネルギーとして活用するなど、事業性を持たせる仕組みづくりが必要。
- ◇ ドローン映像などを活用した発信により、谷津の風景の魅力を多くの人に伝えることができる。
- ◇ 将来に向けてこの風景を残すためには、学生だけでなく子ども世代にも関心を広げ、次の担い手を育てていくことが大切。
- ◇ 行政としても地域の取り組みと連携しながら進めていくことが重要。



④全体で発表！

3班 生き物・生物多様性（自然の恵み）



【発表】

3班では、生き物や生物多様性の観点から、谷津の自然の恵みをどのように守り高めていくかについて議論しました。課題として、ザリガニやアライグマなどの外来種、イノシシによる農作物被害、竹の繁茂による植生の単調化などが挙げられました。また、ホタルの餌となるカワニナの減少など、生態系の変化も共有されました。さらに、地権者の問題や人と自然の関わりの減少、気候変動による降雨環境の変化なども生物多様性に影響していると指摘されました。今後は、谷津の価値を観光や情報発信などを通じて広く伝えるとともに、街灯の明るさの工夫など生き物と共存する地域ルールを整えながら、豊かな自然環境を次世代につないでいくことが重要であるとまとめられました。

【参加者コメント】

- ◇ ホタルの生息には河川環境の保全が重要であり、水環境を守る取り組みが必要。
- ◇ 暗い環境を守りながらホタルを観賞できる工夫や、子どもが自然の中で遊べる機会づくりが大切。
- ◇ 生物多様性を考える際には、本来この地域にどのような生き物がいたのかを調査し、過去と現在を把握する視点が重要。
- ◇ 田んぼ環境の再生や植生管理を行うことで、生物多様性の回復につながる可能性がある。
- ◇ イベントなどを通じて多くの人々が環境管理に関わる機会をつくることで、生物多様性の維持にもつながる。
- ◇ 谷津の道が整備されれば、散歩や健康づくりなど地域の身近な自然の場として活用できる。



④全体で発表！

4班 コミュニティ・出会い・体験・教育・学び



【発表】

4班では、「コミュニティ」「出会い」「体験」「教育・学び」をテーマに話し合いました。

班の中で多く挙げた課題は、距離が遠いことなどもあり、谷津の認知度があまり高くないのではないかと感じた。

それに対して、イベントの実施やアクセスの工夫、SNSでの発信などのアイデアが出ました。また、アプリの活用や馬とのコラボレーションといった提案もありました。

【参加者コメント】

- ◇ 富里は馬との関わりが深い地域であり、地域資源と谷津の活動を組み合わせた取り組みの可能性がある。
- ◇ アプリなどを活用することでアクセスや楽しみ方を広げ、谷津を訪れやすい場所にできる。
- ◇ マラソン大会など地域イベントと里山整備を組み合わせることで、楽しみながら参加できる仕組みが考えられる。
- ◇ 既存の地域コンテンツと組み合わせたイベントや事業を行うことで、新しい来訪者のきっかけづくりになる。
- ◇ 自然体験とイベントを組み合わせることで、子どもや家族も参加しやすくなる。
- ◇ 子どもの頃の自然体験は記憶に残りやすく、将来地域を大切に思う人を育てるきっかけになる。
- ◇ 地権者や枝木処理など、活動を進めるうえでの現実的な課題についても考えていく必要がある。



④全体で発表！

5班 コミュニティ・出会い・体験・教育・学び



【発表】

5班では、コミュニティや体験、教育・学びをテーマに意見交換を行いました。議論の中では、谷津はアクセスの面で課題があるという意見が出た一方で、その不便さを特別な体験として魅力に変えることもできるのではないかと、いう発想も共有されました。こうした視点から、谷津を訪れるきっかけづくりや新しい関わり方について、さまざまなアイデアが出されました。

【参加者コメント】

- ◇ 谷津はアクセスが良くないという課題があるが、その不便さをキャンプのような特別な体験として魅力に変えることもできる。
- ◇ 地域のコミュニティがしっかりしている一方で、新しく関わる人にとって心理的な距離を感じやすい面もあり、気軽に関わられる拠点やハブのような仕組みがあるとよい。
- ◇ 富里では複数の団体が谷津保全に取り組んでいるため、団体同士が集まり将来について話し合う場があるとよい。
- ◇ 都市部の人にも谷津の魅力を伝えるため、末廣農場や商業施設などを拠点とした情報発信の場づくりも考えられる。
- ◇ 音楽やアートなど、好きな人が集まるきっかけをつくることで関心を上げられる。
- ◇ 親しみやすいキャラクター的な存在を通じて谷津を知ってもらう工夫も考えられる。
- ◇ 谷津の魅力は実際に体験することで伝わるため、その魅力を広げるアンバサダーのような存在を増やしていくことが大切。
- ◇ まずは地域の人が身近な人に谷津の価値を伝えていくことが重要であり、「なぜ谷津が大切なのか」を共有する取り組みが必要。
- ◇ イベントだけに頼らず、竹を使ったアートや音楽など多様なきっかけを通じて人が集まり、コミュニティを広げていくことが期待される。



④全体で発表！

6班 ウェルビーイング・健康



【発表】

6班では、ウェルビーイングや健康をテーマに、谷津の活用について議論しました。

都市生活では食生活の乱れや運動不足、足の疲れ、人間関係のストレス、デジタル機器による疲労など、心身の課題が多く挙げられました。これに対し、谷津で体を動かし自然に触れる活動そのものが、心身の健康につながるのではないかという意見が共有されました。一方で、トイレなどの設備不足など、日常的に利用するには課題もあることが指摘されました。

今後は、年代や目的に応じた体験や企画を広げるとともに、谷津を自然の中で体を動かす場として活用することで、健康づくりやウェルビーイングにつなげていく可能性が話し合われました。

【参加者コメント】

- ◇ 谷津での作業や活動は自然に体を動かす機会となり、健康づくりにもつながる。
- ◇ 谷津の活動は心身の健康やウェルビーイングの多くの課題に応える可能性があるが、より多くの人が参加できるインクルーシブな取り組みが重要。
- ◇ リトリートやヨガなど、気軽に参加できる体験型の活動も今後の可能性として考えられる。
- ◇ 自然の中で体を動かすことで、心地よい疲れや精神的な充足感を得られるという実感がある。
- ◇ 炭焼きなどの自然体験イベントには遠方からも多くの方が参加しており、健康と自然体験を結びつけた取り組みの広がりが期待される。
- ◇ 谷津に関わる人は幸福感を感じていることが多く、まずは訪れて体験する機会を増やすことが重要。
- ◇ 里山ウォーキングなど気軽に参加できる仕掛けを通じて、関わる人を増やしていくことがウェルビーイングにつながる。
- ◇ 自然の中で過ごすことはストレスの軽減や精神的な安定にもつながる可能性があり、継続的に関わる機会づくりが大切。





4.まとめ



西廣淳

国立研究開発法人国立環境研究所気候変動適応センター 副センター長

多くの興味深い意見や提案が共有され、非常に有意義な時間であったと感じました。特に、環境の悪化や担い手の高齢化といった課題を嘆くのではなく、「これからどうしていくか」という前向きな視点の提案が多く出されたことが印象的でした。

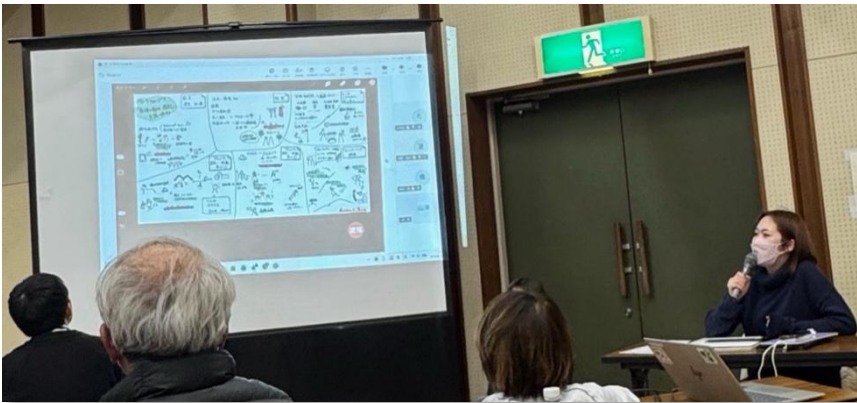
一方で、社会全体では人口減少が進む中でも緑地が建物やソーラー施設へと転換され、自然が不可逆的に失われている現状があります。また、地域で自然を手入れしてきた知識や経験を持つ人も減少しています。こうした状況の中で、これまで当たり前とされてきた社会の仕組みを見直しながら、自然との関わり方を改めて考えていく必要があります。

その点で、富里や佐倉の地域には大きな可能性があります。観光地のような目立つ資源がなくても、人が安心感や安らぎを感じる自然環境が残されていること自体が価値です。こうした自然の魅力を大切にしながら新しい取り組みを発信していくことで、この地域から日本、さらには世界へ広がる新しい価値を生み出す可能性があると感じました。



▲全員の発表が終わった頃には、外はもう春の夕暮れを迎えていました





グラフィックレコーディング担当: 東京大学 高橋菜(博士課程)

本日はグラフィックレコーディングを担当し、皆さんの議論を記録させていただきました。課題についての共有がある一方で、「こんなことができれば面白いのではないか」という前向きなアイデアが多く生まれていたことが印象に残りました。今日の議論や交流をきっかけに、これらのアイデアが少しずつ形になっていくのを楽しみにしています。

グラフィックレコーディング Part.1 イントロダクション

グリーンインフラ地域共創に関するオープン研究会

谷津のある未来の風景を、ともに描く Part.1

八ッ塚のしみず谷津

自然の多様な機能を活用
+ 清水建設の取組/ノウハウ
地域固有の生態系を尊重

都市型ビオトープ
郊外型しみず谷津

人と自然の新しい関わり方

富里のホタル

P2007~活動19年目!!

水質の保全
地域課題を活動を通じて解決
水質の保全
周辺環境の保全
子どもESへの教育
出前授業
里山塾

保全よりも里山を楽しまないと! 重要なのは
付けたら
みんなが...
市外の人も多く参加!

おしどり野を育てる会

R元年~活動中

"大人の遊戯場"
リタイア組
← 研究者への参加
学生
今年12月「防災減災」テーマに活動!

水路をつくらせり
橋をかけた...

谷津みらいの会

R4年~ 富里の原風景を次世代に!

将来、富里市民が
用いる住民が
自然の水を合せて
憩い求める
場所になる!!

元々口田んぼ
池や田んぼ作り
→ 水が溜まる
→ 地下水が溜まる
耕作放棄地
陸地化
→ 生き物のすみか
ボタル、ツバメ

日本大学

なぐら先生チーム

"楽観的"な
谷津をどうに!!

谷津ワークショップ E 企画・運営

谷津を楽しむ人、思い入れが深い人、気づき深!

2年目: 谷津に来る
"動線"を
3年目: 学生による
企画イベント
など
Welcome!!

北総クルベジ

パイオニアに
→ !!
獲得している
体験団体

保全活動で出る
竹や剪定枝

未来の子どものために
確かな未来を創ろう!!

パイオニア、クルベジも谷津保全に貢献
+ その仕組みをつくらせり。

隅田川 マルシェ

年10回開催!

前後20年の間...

隅田川
"お祭り"
マルシェ
共有
つなぐ

隅田川の底を直erra
みんなに楽しませよう!!

~富里連携~
富里の竹
100本
近く!!

七夕のぼりや
クリスマスツリーに利用
"これ何だ!!"
興味を持って
くれている!!



グラフィックレコーディング Part.2 インプットセッション

PART 2 『谷津の歴史とミライ』

国立環境研究所 西度淳先生

地球の自然と関わって、活用してきた
→ ここ数十年の自然との関わりは？
うまく関わり合ってきた？

新しい社会のニーズに合わせた自然の多機能の活かし方は？

ex) 水害リスク
上流部は耕作放棄
下流部は都市化
→ 河川の直線化
→ 流速が上がり人口が多い下流部は洪水

ex) 富栄養化
アコ→農地等の面源系が原因

グリーンインフラ (GI): 自然を活かす取組
"自然の歴史を知り、次の一歩を考える"

自然の歴史や特徴をどう読むか?

平安～江戸 谷津には田んぼがつかさめた
常陸国風土記

"夜刀(ヤト)の神"
"ここから上は神の土地!! 下で田んぼを同じ!!"

→ 水源地を守ることの重要性を昔から認識していたのか。

谷津口全部 耕作放棄 地形変化 牛割ほどの谷が埋め立てられる
1940 1960 1970 1990 2000

放棄 農家 "荒れてしまった"
"田んぼがつかさめた前の状態に近づけた"

見方を変えれば他の自然の恵みももたらしているかも。

場所と選定(管理方法も工夫する) 谷津の機能を価値を上げられる!

ex) 谷津の斜面林の多すぎる竹の問題
CO₂を吸収して成長した竹を炭にする事で隔離(炭炭素)
価値の高い野菜としてクレジットとして企業に販売
"カーボンニュートラル"という新しい機能
食料生産の場としての機能を再評価されるかも...

GIの重要性は高まる → どんな空間スケール・目標計画で考えているか
水害対策) 流域スケール
社会のスケールとは一致しない
併用
流域スケールで情報基盤・連携組織をつくる
自治体スケールのプラットフォーム
企業・市民団体による実践
富里市のPF: 富里市地球温暖化対策実行計画

課題
・地権者、農業者との連携を深める
→ 公益の理解と個人に負担させない
→ 共通の価値をつくる
・流域内の自治体連携
→ 流域全体で価値をあげる

グラフィックレコーディング Part.3 ワークショップ

ワークショップ!! 『谷津の魅力・役割』を洗い出そう

風景・歴史・水源

課題 [耕作放棄地 雑草管理の共同
地権者との共有地
高コスト...]

価値を示す・守る活動
市民によるボランティア
自治体による管理

果樹・雑草の竹の刈り入れ
「刈り入れ」のボランティア
「刈り入れ」のボランティア

情報発信・PR
SNS
Twitter
景色がキレイな場所
子どもが安心して遊べる場所

若い世代に
環境にやさしいイベント
馬とつながる深い地域
市内の乗馬施設とコラボ
馬と谷津を結び
アツリ活用
馬とTAXI Go!
既存コンテンツとコラボ

防災

課題 治水・循環など
水害対策
谷津の防災
水源地の防災
+αの価値共有

ヤナギ管理: 窒素除去
斜面林の竹管理: 保水

公園化
遊水地公園
→ 広域で考える

水源地の防災
+αの価値共有

聖域としての馬居の重要性

コミュニティ

アクセシビリティ → メリットにも
車・タクシー only
遠い所へ行くコンテンツ
ex) フェスタ
"不便は価値"

物理的 + 心理的
谷津
谷津大使
魅力を伝え、目に惚惚い
ファンを増やす
なぜか谷津を
言葉化しよう!

イベント
谷津大使
魅力を伝え、目に惚惚い
ファンを増やす
なぜか谷津を
言葉化しよう!

イベント
谷津大使
魅力を伝え、目に惚惚い
ファンを増やす
なぜか谷津を
言葉化しよう!

生物多様性って有用、一方で...
外来種 獣害 生物減滅 単調化
観光資源として活用
見えて、知って、愛そう!

環境保全のための地域ルールづくり
環境教育
環境調査
過去・現在

体の悩み、不健康
人混み、人間関係、デジタル疲れ
谷津に来て活動することで解消!!

STEP1
谷津に来る障壁解消
(頻りに来れない、トイレがない)

STEP2
谷津に来る機会を増やす
"健康にいい環境にいい"

イベント
谷津大使
魅力を伝え、目に惚惚い
ファンを増やす
なぜか谷津を
言葉化しよう!

参加費無料で
誰もが参加できる
参加!!
日頃の活動につながる

